

NPOでは、ボランティアの力が不可欠です。“地域や人とのつながりが欲しい” “社会の役に立ちたい” など自身の生きがいを探すとともに、NPOが目指しているミッションを陰から支えてみませんか。

求人団体名	活動概要
NPO法人 シェアフィールド	<p>アミークラブは宝塚市の放課後児童健全育成事業です。9月下旬に栄町から御殿山へ移転しました。空いているお時間に子どもたちにとっての「もうひとつの我が家」作りのお手伝いをしてみませんか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動場所 宝塚市御殿山2丁目1番1号 内容 ①児童の来所時迎え・帰宅時送り ②園芸活動補助 ③清掃補助 ④児童の育成補助 日程 月1回2時間程度～ ※相談に応ずる 資格 高校生以上で心身共に健康な方 交通費 上限500円までの支給
NPO法人 新エネルギーを すすめる宝塚の会	<p>私たちは環境問題に興味を持つ会員の集まりです。と一緒に活動していただけたら嬉しいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動場所 宝塚市野上1-1-3 非営利型株式会社宝塚すみれ発電事務室 宝塚市内の市民発電所（1号～3号） 内容 会員向けニュースの発送作業 市民発電所の植樹、整備 日程 不定期 交通費 一律500円 その他 スタートする前に電話でお話して登録していただきます。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>10月17日（土） 市民発電所 「宝塚すみれ発電所第3号」 植栽ボランティア募集中</p> </div>

新しくスタートした団体 | 2015年6～8月

特定非営利活動法人 兵庫空き家相談センター（宝塚市）	空き家問題解決のためのセミナー＆個別相談事業
悠久（宝塚市）	お墓専門の掃除、クリーニング事業
特定非営利活動法人 但馬自然史研究所（豊岡市）	自然体験施設などを活用した環境教育や地域活性化イベント
Senior Zone（西宮市）	シニア世代がおこなう用事内容を問わない1回1～2時間の一時保育

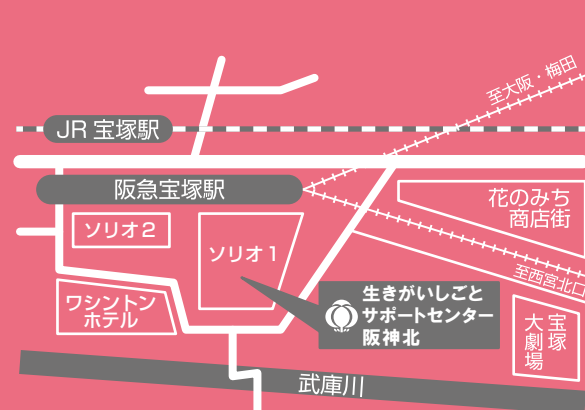
／おめでとうございます／ ※当センターでは補助金申請のサポートも行っています

平成27年度コミュニティ・ビジネス離陸応援事業 補助認定団体

鹿肉OEM受託プロジェクト	鹿の食資源化にむけた、OEM受託のための商品開発事業
特定非営利活動法人 兵庫空き家相談センター	空き家相談事業
特定非営利活動法人 たんばコミュニティネットワーク	コミュニティFMたんばの開設

平成27年度 高齢者起業支援事業 補助認定団体

Senior Zone	シニア世代がおこなう用事内容を問わない1回1～2時間の一時保育
-------------	---------------------------------



生きがいごとサポートセンター阪神北

〒665-0845
兵庫県 宝塚市 栄町2-1-1
ソリオ1-3F 宝塚NPOセンター内
TEL：0797-87-4350 FAX：0797-85-7799
E-mail：cdc@hnpo.net
URL：http://cdc.hnpo.net/
駐車場：ソリオ1…30分 200円

「生きがいごとサポートセンター阪神北」は、兵庫県の「コミュニティ・ビジネス等生きがいごと支援事業」の補助を受けて、(認定)宝塚NPOセンターが実施・運営しています。この事業は、「播磨西」「播磨東」「神戸西」「神戸東」「阪神南」を含めた6拠点にて運営されています。

発行人：牧里 每治 編集人：中山 光子

特集

／ストレスフリー／

ボランティアのススメ

「ほっておけない」を支えるボランティア

非営利組織の活動は、多くの人を巻き込み、社会参加の場を作り上げることです。会員としての参加もありますが、今回はボランティアを考えてみたいと思います。“ボランティア”の語源はラテン語のボランタール（自由・正義・勇気）です。そのため“Volunteer”の原義は「志願兵」「義勇兵」といわれています。非営利組織の活動は、社会課題を見つけてしまった人が「ほっておけない」と動き出す自発的なものです。ボランティアはその活動に対する志願兵といえると思います。そのことから考えると「ほっておけない」という意識を共有した有給スタッフとボランティアが机を並べて働いていることは、非営利組織ではごく自然なことです。一般の企業では考えられない光景。なぜならば、企業にとって顧客である消費者は生産したモノやサービスを購入する人たちであるからです。一方、私たち非営利組織では、会費を支払い支えてくれる会員や寄付者、労働を提供してくれるボランティアも顧客と考えます。商品は、課題解決のプロセスを同じ志を持ち共有することで、目に見えないモノ。だからこそ、顧客が離れていかないように、情報共有や活動に対する“感謝”のフィードバックが必要になるのです。ボランティアコーディネーターという言葉は、ボランティアをしたい人と活動者を求める団体とのマッチングですが、非営利組織では事業の仕事の一部をマッチングさせるだけでは不十分です。ボランティアの成果が団体の事業やスタッフを支えになっていることを評価し感謝すると同時に、その支えが社会を動かす力になっていることをしっかりと伝えることが最も大切です。そのことにより、団体もスタッフもボランティアも皆ともに成長し、社会を動かしていくのです。

先述のラテン語のボランタール以外に、もう一つ「火山」「Volcano」が語源であるという説もあります。ボランティアの火山の様に熱い志を社会に繋げられるか否かは、受け入れる非営利組織が問われているのかもしれませんが。多くの人を巻き込み社会を動かしていく場そのものが、非営利組織なのだから。

シニアボランティアさんに伺いました

シニアボランティアをする理由は「健康」「若い人との交流」「社会貢献」のためという人が多いですが、その理由の奥にあるはじめたキッカケ、ポリシーなど有給職員より長年にわたり多くの事をみてきたお二人にお話を伺いました。

毎日
出勤



自身が、参加して良かったと思える活動をしなくてはいけない。

ボランティア歴 20年 和智敏夫さん



ボランティアといっても、責任をもち継続しなくてはならない。

ボランティア歴 20年 鶴丸梯二さん

空いた時間ではなく、毎日、長時間、長年働いてくれているボランティアさんの仕事内容は、イベントの企画、運営など大きなものから、アンケート集計など手間のかかるものまでと多岐にわたり、時には法人の方向性に対してアドバイスまでしてくれています。

週1
出勤



両親の介護も終わったので。
若いときにコミュニティ活動を30年以上していました。
一生懸命している人の傍にいたい。
きっかけは震災です。



他にも海外のボランティア活動に参加しています。
仕事もまだまだ現役です。
パートナーが亡くなったので。

曜日ごとに、いろいろなボランティアさんが働きにきてくれています。まさに縁の下の力持ち。HPの更新から、郵便物の仕分けまで痒いところに手が届く仕事を素早くこなしてくれています。

NPOが収益事業を行い、株式会社も社会貢献している今、両者の垣根は無くなってきています。しかし、シニアボランティアさんが若手有給職員と肩を並べて作業しているノスタルジックな多世代交流の風景は、非営利組織だけにみられるものです。それはNPO法人格などよりもずっとNPOたる事を示しているのではないのでしょうか。

また、ボランティアさんの参画はNPOのミッションを達成する上で重要なことです。いくら「社会を変える」と掲げても法人運営のための事務作業は多く、有給職員のできる範囲は限られています。一方、ボランティアさんの参画は、人数、時間など無限の可能性があり、法人が社会へインパクトを与える上で大きな力となります。しかし、ここで気をつけなくてはならないのは、ボランティア活動は依頼するものではないということです。依頼をしてしまうとそこに上下関係が生まれ、自発性まで失われてしまいます。対価を払わず、依頼もせず参画してもらうには、ミッションを達成したい人の「情熱」に共感してもらうしかないのです。また、多くの参画を得るには、その法人の透明性が重要です。そして透明性は更なる参画を呼びます。

そんな仕組みは色々ありますが、一番重要なことは情熱に対して一助する人、される人どちらも何のために仕事をするのか問われたなら「お疲れ様でした」と言いあえた時の「生きがい」を感じることはないのでしょうか。

いま、オススメのボランティア

宝塚 NPO センターでは宝塚市立勤労市民センター、宝塚市立スポーツセンターにて「100色珈琲」というボランティアさんだけで運営するカフェを展開しています。現在20~70代の約20の方がボランティア登録し楽しく働いています。追加の募集は随時おこなっています。



週1回、短時間からでもOKです。珈琲の淹れ方の勉強もできます

	営業時間	定休日
勤労市民センター店	11:30~13:30	火曜日
スポーツセンター店	11:00~14:00	プレオープン中

世代のつながるボランティア



週1回100色珈琲でボランティアをする潮龍馬さん



大学サークルでボランティアに励む那須智尋さん



宝塚NPOセンターのインターンシップ生北本晶子さん

100色珈琲で活動している潮さん。当センターのインターン実習生である那須さんと北本さん。若者達はボランティアをどのように捉えているのでしょうか？3人に意見を聞きました。潮さんは昨年の夏から100色珈琲に参加。活動を通じて人との出会いが得られたと語ります。那須さんと北本さんは関西学院大学人間福祉学部に通う3年生。那須さんは学内のサークルで精力的なボランティア活動を展開中。北本さんは夏休み4週間のインターンを行い、実習を通してボランティアに興味を持ったと言います。ボランティアに対する考え方を聞くと、明確な目的や目標が必要だという意見が共通していました。また、自分たちで工夫し実行する、新しいことも進んでやる意欲も持っています。強い目的意識や意欲は、活動を盛り上げ、また、新しい活動を生み出す原動力にもなります。若い世代のそうした力を活かすには、既に出来上がった場ではなく、彼らがゼロから自由に組み立てていける、自分達の発想で変えていけるような活動の場が必要ではないでしょうか。そうした自由な場に入ることによって、若者達は長所を発揮し、全く新しい活動がそこから生み出されるのです。また、3人の若者は次のような意見も共通していました。「若者ばかりより、異なる世代と活動する方がいい」というものです。若者の目的意識は、活動を引っ張る力になり、新しい視点で課題を発見することもできます。それだけでなく、例えば若者とシニアの異なる価値観がぶつかることで、そこから新しい発想が生まれ、今までとは違った活動の展開につながります。普段関わりの少ない異世代が出会うこと自体が、活動者にとって学びの機会や楽しみ、やりがいとなり、活動を続ける意欲を生みます。潮さんも100色珈琲を通して子どもと関わることが楽しみと語ります。那須さんは共に活動するシニアから、学生と活動できて嬉しいといわれています。

こうしてボランティアを通して異なる世代が混ざり合うことは、地域の中に、異なる世代が出会い、つながる場を生みだします。それは例えば若者が、シニアが、それぞれの持つ知恵やアイデアを学ぶ場であり、新しい活動が生まれる場でもあります。異世代が混ざり合う機会が少なくなっている今、ボランティア活動はそれを結び付けるもの、つながりのきっかけの1つとなります。こうした異なる世代を巻き込んだコミュニティが作られることこそ、ボランティアという活動が持つ1つの意義でもあります。